

小説『満ちて来る潮』の舞台・佐久間探訪

浜松市天竜区佐久間町は、短編「川の話」の天竜川と佐久間ダム工事見学、文学碑「天龍川・讚」など、井上靖にゆかりのある土地です。特に、小説『満ちて来る潮』はダム工事見学が反映され、題名にある「満ちて来る」については、井上靖がこのイメージを持ち続けていたことが考察されています。小説や詩の舞台を訪ね、思いを巡らせてみませんか？これまでとは違った佐久間の風景が見えてくるかもしれません。

昭和30、31年の2回、井上靖は佐久間ダム工事を見学しています。最初の見学の帰路、「『満ちて来る潮』に登場する主要人物の一人を、佐久間ダムの設計者にしようと考えた」と自作解題のなかで記しています。昭和63年4月、文学碑建立の打ち合せのため、再び佐久間ダムを訪れています。

『満ちて来る潮』のなかの
：セリフを引用しています。



佐久間ダム

「ここからでは高さの見当が付きませんが、あのコンクリートの壁は丸ビルの高さの五倍あるんですよ」

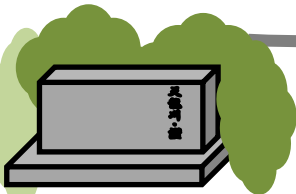
「ベルトコンベアの音がちょうど雨の音のように聞こえます」

骨材採取場や飯場だった地域を見渡すことができる。採取場は現在、学校、キャンプ場・公園になっている。

骨材製造工場跡

●セメントサイロ跡
(現・佐久間周波数変換所)

「ここが天竜ダム工事の入口ですよ」



井上靖文学碑

井上靖と佐久間町との関わりは、ダム工事見学からはじまります。文学碑のある上島キャンプ場は当時、骨材採取場でした。昭和63年10月、「川」をテーマしたイベントの記念事業として文学碑は建立されました。設計は、彫刻家の舟越保武氏です。

天竜川

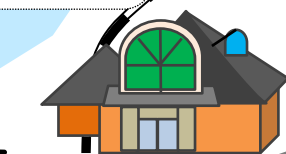


ダム工事の資材を運ぶために作られた橋。通称「B型鉄橋」。道路を見ると二条のレールが埋められているのがわかる。

●飯田線・中部天竜駅

紺野と別れた苑子はその打撃を胸に飯田線の「小さな駅」から電車に乗り豊橋へ。舞台は結末の地、興津へと移ります。

飯田線佐久間駅に併設する「駅の図書館」。井上靖コーナーでは、文学碑「天龍川・讚」の直筆原稿(複製)や佐久間との関連資料を展示しています。作品の舞台を巡ったら、図書館で作品に触れてみましょう。



佐久間図書館

●紺野と苑子がジープで来た道 天竜旅行

至 浜松

“左手に天竜川の流れが広い礫を抱いて大きく湾曲し、右手には飯場の建物をその斜面の到るところに載せた丘があり、礫と丘の間の広い斜傾地を舗装された道路が縦横に走っている。新しく都会でも建設されようとしているかのような、異様な新鮮さを持った風景である。「ここが天竜ダム工場の入口ですよー」 ” (天竜川の眺め)

“はるか左手の方に、不夜城のようにおびたしい電燈の灯っている丘の一角が見えている。夜気は冷たかったが、しかし、耐えられぬほどではなかった。先刻、紺野が雨音と間違えると言ったベルト・コンベアの音が、急に高くなって、苑子の耳へはいつてきた。なるほど雨でも降っているような音である。” (骨材製造工場)

“大堰堤が川をせきとめている。高さ百五十メートルあるというコンクリートの壁面が、川幅いっぱいに向かい合っている二つの山の上に置かれ、壁面の中央部にあけられた穴から水が二つの大瀑布となって迸り出ている。川底はずっと下の方である。” (佐久間ダム)

『満ちて来る潮』

(「毎日新聞」昭和30年9月11日から昭和31年5月13日迄連載)

医師の安彦と妻の苑子(そのこ)、苑子の従妹の笙子(しょうこ)、ダムの設計技師で安彦の患者である紺野を中心に、男女の心の交錯を描出した長編小説。小説は映画化もされ、ダム工事現場では映画の撮影も行なわれました。

井上 靖 小説家、詩人 明治40年5月6日～平成3年1月29日(1907-1991)

北海道旭川生まれ、伊豆の天城湯ヶ島で幼少期を過ごす。浜松中学から沼津中学に転じ、金沢の四高を経て京都帝国大学を卒業、大阪毎日新聞社入社。井上は小学6年生から中学1年生まで浜松で過ごし、当時のことを小説『帽子』や詩「カマイタチ」に描いています。小説『闘牛』で芥川賞受賞。人の本質を言葉の美しさや優しいまなざしで描いた作品は、時代を超えて今でも多くの人々に読み継がれています。

～井上靖の佐久間ダム見学～

「川の話」『姨捨』所収

ダム工事を見学した井上は、感想や工事の様子を「川の話」に記しています。当時の北遠の様子を井上の目を通して伺い知ることができます。小説『満ちて来る潮』で描かれる主人公二人の“天竜旅行”との共通点も多くあります。佐久間ダムは作中で天竜ダムと記されています。

『あした来る人』

(「朝日新聞」昭和29年3月27日から同年11月3日迄連載)

井上靖を佐久間ダム見学に誘ったのは当時大阪商工会議所会頭だった杉道助氏です。井上は『あした来る人』の主要人物・梶大助の「人柄や性格は、杉氏のものをそっくりお借りしました」と『満ちて来る潮』の自作解題で記しています。

●佐久間ダム・佐久間電力館

住所：浜松市天竜区佐久間町
佐久間2252-3

電話：053-965-1350

時間：9:00～16:30

休館：月曜(月曜が祝日の場合は開館し、翌火曜日を休館)
年末年始

※8月は毎日開館します。

●井上靖文学碑

住所：浜松市天竜区佐久間町
中部

※上島キャンプ場と公園の
一角に文学碑があります。

時間：文学碑の見学は自由

●浜松市立佐久間図書館

住所：浜松市天竜区佐久間町
佐久間2431-3

電話：053-965-1682

時間：火～金 10:00～18:30

(10月～3月は18:00)

土・日 9:30～17:30

休館：月曜、祝日(月曜が祝日の場合は翌火曜日も休館)
年末年始、館内整理日等